



Why I am in JAPAN

[第5回]

創英には多くの海外出身者がいます。そんな彼らが「なぜ日本を選んだのか」そのきっかけを連載形式でご紹介します。連載第5回は、呂弁理士。どうしてまず日本に来ることになったのか…に迫ります！



弁理士(中国)
呂蔚蓉

日本に来て9年目になりました。日本語学校1年、大学院2年、創英6年(育休1年)の9年間、本当にあつという間でした。

■日本への留学を決めた理由

子供の頃は、一休さんやドラえもん等の日本テレビアニメに夢中でしたが、日本に結びつけられなかったです。中学生時代は、日本ドラマ「東京ラブストーリー」の主人公赤名リカ及びその主題歌「ラブ・ストーリーは突然に」に魅了され、その時から日本への興味が膨らんでいきました。

大学では、薬学と日本語の両方を勉強できる日本語薬学専攻を選び、本格的に日本語の勉強を始めました。日本語薬学専攻は、通常の薬学専攻に加え、日本人の教師と中国人の教師がそれぞれ違う教材を使って日本語の授業を進めるとともに、特定の薬学科目については日本に留学した経験を持つ教師が日本語で授業をすることが特徴です。

大学卒業後、薬学及び日本語の両方を生かせる仕事がしたくて、日中特許翻訳の仕事につきました。周りの同僚たちは、みんな日本に留学や生活した経験があり、日本語堪能な人々ですので、日本語だけではなく日本社会についても色々と教えてくれました。せっかく日本語を勉強しましたから、一度は日本に暮らしてみたいという思いがますます強くなっていきました。

2009年4月に私費留学生として来日し、日本語学校で日本語を1年間勉強した後、東京理科大学専門職大学院の知的財産戦略専攻に進学しました。

■創英に入所した経緯及び創英での仕事

大学院卒業後、予定のとおり中国に戻り、中国の特許事務所で特許技術者として働きましたが、逆カルチャーショックを受けて、当時日本で仕事をしていた夫と相談し、中国の仕事を辞めて日本に戻って再就職することにしました。

中国語や中国特許実務経験を生かせる仕事がしたくて、2013年5月に創英に入所させて頂きました。入所後は、直ちに中国関連案件の仕事に携わることではな

く、日本人と同様に日本国内実務の勉強からスタートし、ベテランの先輩たちの指導を受けながら明細書の作成や中間処理の仕事を覚え、徐々に仕事の幅が広がり、日本国内の案件だけでなく、外内案件や内外案件も手伝わせて頂き、仕事の難しさの中に面白さを感じています。

■仕事と子育てとの両立

2016年12月に娘が生まれ、1年間の育児休暇を取らせて頂き、現在は仕事と子育ての両立を頑張っています。子育てを通じても日中の違いを感じています。例えば、日本の育休は最大3年間取れるようになりましたが、中国では平均的に4ヶ月しかないです。夫婦共働きなどの場合、日本では、子供を保育園に預けることが多いですが、中国では、日本のような保育制度が整備されておらず、3歳未満の子供の世話を見るのは祖父母やベビーシッターがメインです。日本で働く外国人にとって、母国にいる親の力を借りて子育てをするのは無理であり、保育園の存在は本当にありがたいです。

下記の写真は、先日、娘と一緒に日本科学未来館に遊びに行った時に取ったロボットの写真です。ロボットの内部構造を見るのは、初めてですし、顔の表情も動きも繊細ですので、思わずシャッターを押しました。これからも仕事や子育てなどを通じて、様々な人と出会い、新しいことを色々と体験できればと思います。

